

ISDA® JAPAN MONTHLY UPDATE

2008年11月

コミッティ活動

Accounting: 担当森田(tmorita@isda.org)

11月5日、みずほコーポレート銀行 高塚 哲 氏を議長とする Japan Accounting Committee の初回会合が開催された。高塚氏から OTC デリバティブへのヘッジ会計適用における諸問題に関して説明があり、これらの問題を企業会計基準委員会(ASBJ)や日本公認会計士協会(JICPA)などの関係団体へ提出することについての提案があった。会議ではまた、新日本有限責任監査法人の上野佐和子先生から、国際会計基準審議会(IASB)と米国財務会計基準審議会(FASB)、証券取引委員会(SEC)で話し合われている問題に関するアップデートがあった。

Weather, commodity & developing products: 担当森田(tmorita@isda.org)

排出権取引: ISDA は経済産業省が主催する「流動化・証券化協議会」の排出量取ワーキンググループの第5回会議に参加した。排出量取引に広く使用されている排出量取引購入協定(ERPA)と ISDA のフォーム(スポット、フォワード/オプション)に関するプレゼンテーションが、長島・大野・常松法律事務所の太田先生によって行われた。

Operations: 担当難波(knamba@isda.org)

ISDA は11月5日に、東京証券取引所、日本証券クリアリング機構並びに証券保管振替機構による「OTC デリバティブのポストレード処理の整備に関する研究会」における「金利分科会」初回会合に参加し、また同10日には同研究会の「クレジットデリバティブ分科会」初回会合に参加した。さらに11月27日には、東京金融取引所による「OTC デリバティブ取引のクリアリング制度検討会」の第二回会合に参加した。いずれの会合も主な議題は日本におけるセントラルカウンターパーティー制度導入の可能性について。

11月25日、Operation Credit Derivatives Working Group は、日本銘柄を参照とするクレジットデリバティブ取引における Calculation Agent City の統一化に関する電話会議を行った。さらなる問題解決のために一週間後に再び電話会議を行うことを決定。

11月28日、ディーラーメンバーが会合を行い、Novation コンセントのプロセスの自動化や、日本を含むアジア地域における電子コンファメーション・プラットフォームの導入促進、affirmation 作業の推進といった 10 月末日付 FED Letter に示されたオペレーション・イニシアチブや新規設定目標について話し合った。

Credit Derivatives: 担当難波(knamba@isda.org)

11月17日、Japan Credit Derivatives Committee 会合において、以下3点が話し合われた:一連のクレジットイベントオークション決済について、昨今の金融危機と CDS に関する本邦メディア報道について、日本銘柄を参照とするクレジットデリバティブ取引における Calculation Agent City の統一化について。また ISDA から、欧米におけるオークションハードワイヤリングのプロセスに関するアップデート、並びに日本銘柄に関するクレジットイベントオークションにかかる本邦規制について、金融庁と話し合った内容についてメンバーへの報告が行われた。

コミッティ並びに作業部会会合/コンファレンスの予定

CDS Auction Working Group
(日本語と英語による会合)

12月1日

Calculation Agent City Call
(英語による電話会議)

12月2日

Operations Committee
(日本語による会合、ただし英語によるプレゼンテーションを含む)

12月3日